

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 11名回答、回答率 80%
保護者様： 18名回答、回答率 72%

職員の意見

○環境・体制整備

児童が多いと狭く感じることもある。
階段が急で歩行のおぼつかない児童の昇降時には配慮が必要。
バリアフリー化されてるとはいいがたい。

※移転前の教室での状況です。2月に移転し教室環境は改善しました。

○業務改善

ガイドライン自己評価においても貴重な意見として活動に反映させるよう努めている。

○適切な支援の提供

アセスメントツールに関してはまだまだ導入が十分ではないが、言語や指示理解などの発達レベルからツールを用いた発展的な支援につなげたい。
業務後の振り返りは十分ではないが、職員の勤務時間の差異もあるため、何か情報共有に活用できるようなツールを検討したい。

○関係機関保護者との連携

保護者と教室間での日々の情報共有は十分になされていると認識しているが、外部機関との連携や情報共有に関しては普段あまり意識していない。また、地域や外部との交流についても積極的に行っていない。

○保護者への説明責任等

普段より送迎時や連絡帳などによって十分な情報共有を行っており、保護者会なども定期的に行って教室の状況や様子などを発信している。

○非常時等の対応

多様な災害の場面を想定した避難訓練を月に一度実施している。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

スペースは確保されているが十分ではない。

騒がしい空間になりがちで、クールダウンする別室や、静かに過ごしたい児童の行き場がない。

手すりが片方にしかない。

二階にある教室に行く為には階段しかない。

建物の老朽化が心配。

※移転前の教室での状況です。2月に移転し教室環境は改善しました。

○適切な支援の提供

色々な活動をしてくれてありがたい。

集団療育が個人に合っているとは言い切れない。

学校と同じようなことをしている。

○保護者への説明等

送迎時や連絡帳などでもわかるがもっとゆっくり話す機会があると良い。

会報をできる範囲で学校などにも配布できると良いと思う。

○非常時等の対応

マニュアルなどを保護者にも配布されると良いと思う。

○満足度

子どもは毎日でも行きたいと言っている。

土曜日の活動内容を早めに教えてもらえると良い。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

活動内容の充実。中学生・上級生の生活自立に向けたトレーニングや体験活動などの企画、実施。

○改善できた点・まだ残る課題

教室内での職員研修が十分ではない。専門性を高めるための研修については内部に限らず様々な機会を利用して受講し、職員のスキルアップを目指したい。



アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

一人一人の児童の特性や状況について共有する時間を十分に設け、共通理解を図っているため、個々に合った支援を提供することができ、結果児童が落ち着いて楽しく過ごせるような環境や療育につながっている。

○改善点

教室全体の取り組みに関しての情報発信が十分ではない。ニュースレターやブログ以外での発信の仕方や、地域や外部との関わりの場を検討し、可能なところから実現させていく必要がある。



中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

活動内容に関して他者との交流を目的とした外食活動や交流活動などを検討、実施したい。児童の社会性など、保護者の期待するものについてのヒアリングをもとに、実生活につながる療育活動を考案、企画し、実施に向けて取り組んでいく。

○1年間で取り組む具体策

障害の特性や支援の仕方など、専門的な知識や技能を身につけるための研修を、外部の研修なども活用して日々の療育内容の質の向上を図る。また研修で得た知識や技能を、ペアレントトレーニングなどの形で保護者に発信できるよう努めたい。

スマートキッズ